



號 七 十 二 第  
 月二十年四十和昭  
 行 發 日 五 回 一 月 每  
 錢五金部一價定誌本一  
 錢拾六金(共稅)年一  
 助之幸川大 總發行所  
 一ノ七西座銀區橋京市京東  
 社信通盟同 所行發

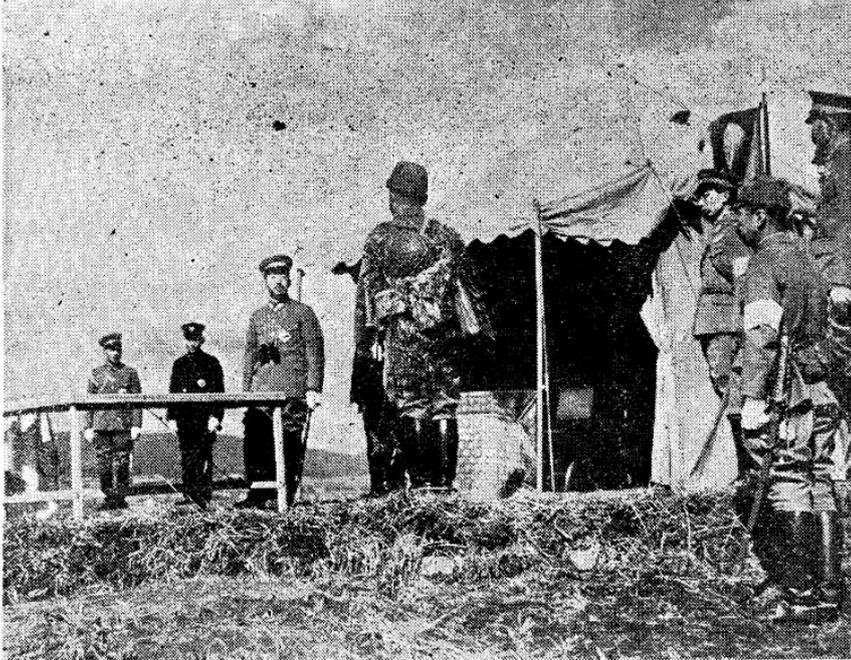
# 近衛師團天覽演習拜觀記

藤 本 有 典

## 岳麓指して

十一月八日秋色濃い岳麓の野に  
 聖駕を仰いで行はれた近衛師團秋

季演習に特派された私達、田中、高田兩氏及び私の記者三名、菊地喜多原の兩寫眞部員は六日午後現地で行はれる軍當局の説明を聞く



聖上陛下を眞近に拜することとて「モーニング」又は從軍服着用のことと定められたので一行は國防色の從軍服に戰鬪帽、中にはゲートルまで巻き込んだ者も居るがその上にレインコートやオーバーを引っかけ、てんでにカバンやバッグを提げてあまり勇壯ないでたちは云へぬ、他人の恰好の悪口を云つたりして難談する中に御殿場に着いた。近衛師團ではこの演習のために國司大佐を長とし、陸軍省情報部の秋山少佐以下も乗込んでゐた。この演習を拜觀する記者は

朝来とんより曇つた空は吾々が御殿場出發後もなく雨になり、秋の冷雨はバラ／＼と車窓を打つ、沿道の空地の所々には豫行崗簿を拜觀した小學生、青年團、婦人會等が冷雨の中に堵列して吾々の一行を見送つてゐた。農家の軒下には收穫された玉蜀黍が朱色に熟して壁も見えぬ程ギッシリと列べられてあつた。

岳麓上空の爆音  
 七日、昨日の雨雲は何處へ去つてか空はカラリと晴れ渡り、早朝はまだ肌寒く感じられた高原の冷気が次第に解けて行く、この頃には演習部隊は既に想定に基く配置を終へてゐた。即ち櫻田少將麾下の北軍旅團は演習場北方吉田附近に、又、陸士、戰車學校生徒等を以て組織した精銳部隊を併はせて李王少將麾下の統率し給ふ南軍は沼津、三島附近にそれぞれ集結を終へ、空には早朝来互に敵情偵察の空軍が岳麓上空に爆音を轟かして飛來、所々に兩空軍衝突して空中戦が行はれてゐた。

畏くも御英姿を拜す  
 八時過ぎ秋宮殿下を始め奉り陪觀の文武官到着、大元帥陛下には御豫定通り演習場御着、諸員奉

の人々とも落合ひ、師團の證明書、腕章等をもらひ、國司大佐の注意を聴いて、軍から指定された宿舎に一先づ引き上げたが、休む暇もなく、午後一時から報導部の指導で行はれる演習場現地視察のため再び報導部に集合した。この日同じく午後一時から御殿場、演習場間の自動車兩陣の豫行が行はれ、吾々の一行は報導部の車を先頭に車を連ねて、豫行崗簿通過直後の沿道を演習場に向つた。御殿場驛から演習場まで二里餘の道筋には行幸當日と全く同様に約五六間おきに憲兵、警官が不動の姿勢で列び、新しく砂利を敷きつめ水を打つた道は「静岡縣」と染め出した新しい半纏の道路人夫によつて自動車道の轍の跡も留めぬ程に絶えず清掃されてゐた。

冷雨車窓を打つ  
 花の穂がほの白く所々に浮んでゐる。箱根尾柄等の四圍の連山もかすかに紫に煙つて雄大な自然の姿に身の引き緊る思ひがする。遙かに見渡す南方山地、西方御殿場等にもすでに御野立所の天幕が見える。用意の地圖と、軍から配布された資料を照し合せながら國司大佐、秋山少佐等の現地説明を聴く、明後日には、大元帥陛下の御馬前、この大自然の中に近代戰の秘術を盡した一大血戦が繰り展げられるのだ、約二時間に亘つて當日の演習實施要項について説明を聴いた吾々は雨にぬれてふるへながら宿舎に歸つたが、當日山地方面の警戒に當る高田君と映畫寫眞部員等は更に出淵少佐の案内で山地臺に向ひ、午後五時頃宿舎に引き揚げて來た。私は七日朝刊用として「けふ聖駕沼津へ、錦旗を御待申上げる演習場」を主題に記事を書いた後本社へ電話を申込み、映畫部員、内閣情報部の内山氏を加へた總勢十人の賑やかな夕食に加つた。

謹然碧空に靈峯  
 明けて八日、午前五時全員一齊に床を蹴つて起床、先づ何よりも先に窓にかけよつて富士の姿は、と西北方を望む、空は早朝から晴れて四圍の山々は曉の柔い日射の中に暗赤色に紫にその山際の線を透してゐるが、富士は残念ながら五合目位から上は雲に包まれてゐる。氣忙しい朝食を終つて車で演習場に向ふ。途中も皆の目は車窓から富士の方に注がれる。六時過ぎ車窓を過ぎる農家の屋根や林の合間から臨む富士は刻一々と雲の衣を剥いで行く、この調子なら富士が出る、皆の、特に寫眞部員の喜び様は大變で、車が演習場に着いた頃には雲は全く消えて、謹然たる富士の姿がけふの行幸を奉迎するかの様に白の冠を頂いて碧空の中にクッキリ浮び上つてゐた。

【演習観記續き】

迎裡に統軍幕野立所に入らせらるれば御座所近くの花の穂も朝露に頭を垂れる。頭上には北軍の緊留氣球が浮び偵察戦は絶えず前線と後方との連絡に當つてゐる。何處とも知れず南軍砲兵陣地からの砲撃は漸く活潑さを加へ、着弾を示す赤、白の煙は北軍陣地近く立昇り、時には畏れ多くも陛下の御座所近くまで這ふ。一望千里、大小の起伏は見渡すかぎり續いて大海原の如く、錦旗の旗風に靡く其の穂は秋光に白く輝いて、寄せて碎ける波頭の様だ。陛下にはその大草原の中に御愛馬を進めさせられ二十餘キロに亘る戦線御巡視に向はせられた。

報道戦また酣

軍ではこの演習報道のために、統軍幕下に特に臨時の郵便局を開設、御殿場經由東京まで二回線、沼津、静岡方面一回線の電話を特設、吾々記者は三十分乃至四十分毎の定時電話によつて現地から直接に本社デスクと連絡し或は生原稿を入れることが出来た。又山地臺方面に向つた高田君には電話連絡がないため警戒のため鳩を携行してもらつた。宮眞は沼津にポータブルの電送機を置き、この電氣と鳩との兩様の方法を採つた。統軍幕下の陛下を謹寫した菊地君は、車を利用して直ちに沼津に向ひ、午後零時過ぎ沼津着、約一時間で見事その他の操作を終へ、一時九分からの電送によつて上の御寫眞を本社に送つた、後で聞けば他の二、三の新報社も寫眞を電送したが成績悪く、宮内省の検閲をパスしたのは同盟のもののみでこれは當日市内各紙に掲載された由である事は我が社電送技術のために特筆して置きたい。

感激!! 感激

演習の様子は當時新聞紙の報じた如くでこゝには述べないが、この日山地臺での陛下の御晝餐に奉仕した供奉の諸員は午後は統軍幕下に歸つて熱心に觀戰して居た。小原内相の珍らしい供奉服姿も人目を惹いたが、堂々たる體態の松平宮相と列んで湯淺内府はそのためか生氣を失つた様に見えた。聞けば内府は二三日前から腹痛を病み當日も秘書官等は供奉を止めて静養してはと注意したが謹嚴な内府は聞き入れず、腹痛を押して終日陛下の御供申上げ、時折、統軍幕下の宮内官詰所の天幕内で休養し、無事大任を果したと言ふことであつた。

西部防衛司令部 西村參謀長一行

關門支社見學

今次聖戰と共に新興東亞大陸への據點としてその地理的重要性を倍加せる北九州地帯をはじめ、廣島以西九州大空の防備を双肩に鐵壁の堅陣も頼もしく、その第一戰に起つて活躍中の西部防衛司令官ニユース送受の部參謀長西村利温少將以下田中大佐、植田中佐、迫田、岡部兩少佐の一行七名は、十一月十日我が關門支社新社屋を訪問、ニユース通

げたことであるが、私達もあの荒野の中に富岳を御背に御馬上二階御颯爽たる陛下の御英姿を拜し感果し得たことを喜び合つたことで激申上げると共に、國司大佐、秋山少佐以下報道部員の適切な指導によつて、この御盛儀の報道を果し得たことを喜び合つたことである。

此の一日一行は船木支社長の案内にて先づ二階通信部に入り、ニユース送受の大動脈たる東京福岡間直通専用一番線の電話機前に於て日笠通信主任より、分秒の停止もなく奔流の如く送信される内外信を始め各種ニユースの速記受信と同時に問答を容れずそのまま地元大朝、大毎、關日、福日の各社及び大分支局、宇部防衛の兩社へ直通専用電話或は豫約電話によつて速報聯絡される實際の状況を前にして詳細なる説明を聴取したる後、西村參謀長以下それぞれ截頭受話器を取つてニユース交流の通話を耳にしたが、何れも口を極めて

照國丸の遭難と同盟電

各社特電を壓倒

十一月廿一日の照國丸遭難に際し我社はロンドン支局の周なる手配とニユース支局の機敏な保護電が兩々相俟つてこの大ニユースを遺憾なく速報し、又も同盟海外通信網の威力を發揮した。故國に照國丸の遭難を傳へる第一報が外信部デスクに飛來したのは恰度眞夜中過の二十二日午前一時十七分、それから續々後電が殺到し午前六時までに入電二十餘通に達したが、朝刊各紙は何れも締切時間を延ばして此等のニユースを採録し同盟電は完全に各社特電を壓倒した。

第一報はニユースに於て東京間を十九分で突破して廿二日午前一時十七分に入電、午前二時一分まで六本入電して大體の見當がついた所へ、午前二時五十分に至つてロンドン直電が入電し始め愈々眞相が明かとなつて来た、発信時間としてはロンドン支局が最も早かつたに拘らず嚴重な檢閲のため本社入電までに二時間半以上を要したのは残念であつた。

然しその後の續報についてロンドン支局の諸君が夫々手分けして乗客、乗組員、或は英國側の各方面の興味あるニユースを多角的に打電し何れも夕刊各紙のトップを飾つたことは御承知の通りである。(外信部R・S生)

マニラ支局移轉  
社團法人同盟通信社マニラ支局は十一月二日左記へ移轉した。

同盟英文放送 紐育でも受信

同盟の對米放送は從來も米國太平洋及び中南米各地で受信されニユースの正確と迅速を以て信用を博してゐたが、今回米國東部に於てもニユース紙が同盟英文放送の受信を開始した旨十一月十九日ニユース支局から入電があつた、同紙はニユース紙・タイムズ紙と對立する大新聞で大西洋岸に於ける米國新聞として日本の放送を直接受信するのは今回が皮切りにある。

月部長會議

月例部長會議は上京中の塚村天津支局長、奥宮中支局長、津支局長の兩氏を迎へて十一月廿四日午後四時新館會議室に開催

傷兵を皆て護つて 明るい日本

福田政治部長より最近の政情、横田東支部長より南支戰況、岩本外信部長より歐洲の戰況につき報告ありて後、塚村氏よりは天津水害當時の様、奥宮氏より期待される汪氏中央政權の成立と中支事情につき興味深い報告があつた。

シエット氏本社見學

日本の文化施設、社會事情を調査見學のため來朝した印度國民會議派の有力者でボンベイの新報「ジャニマギー」の所有者マムリトラル・D・シエット氏は十一月廿七日來社岩本外信部長の案内で社内を見學した。



宮眞はニユース通信聯絡の實際について説明を聞く西村少將の一行

【下開要案司令部許可可濟】

Donnel News Agency, 1477, F. B. Harrison Street, Manila, Philippine Islands, Tel. 51714

蚌埠支局開設

今回新設せる蚌埠支局の所在地 社團法人同盟通信社蚌埠支局 蚌埠太馬路一九二號

# 同盟通信社

## 分館新築落成

### 總務局 移轉

今夏本社東裏空地に新築中の分館（總務局）は十月末落成、社長事務室並びに總務局は十一月四日これに移轉した。何分物資統制の時代に贅澤は言へない。木筋コンクリート總二階、延坪二百二十四坪三合四寸、御粗末なバラツク式は隠すべくもなく、暖房用石炭ストーブの細煙突を林立させた姿は急造の……いや、茲では採光換氣に留意した明朗蕭洒、寫真に見るやうな白壁の近代建築、まさに統制時代の所産として置かう。

分館の部屋割は平面圖にある通り。大體總務局は一階ワン・フロアを理想としたが、これも贅澤は言へなかつた。即ち五十坪の一階廣間には、經理部、人事、庶務の各部がはいるとも一杯、漸くストープをおく空所を作り得るのみ。そこへ出版部經理と、通信局長や總務局參事の机を割込ませてキチクである。恐らく映畫、出版等總務局全部が一堂に會す

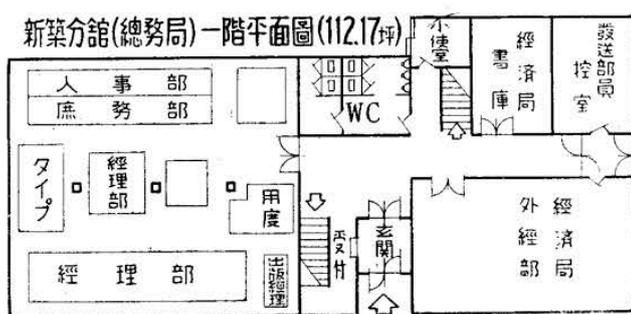
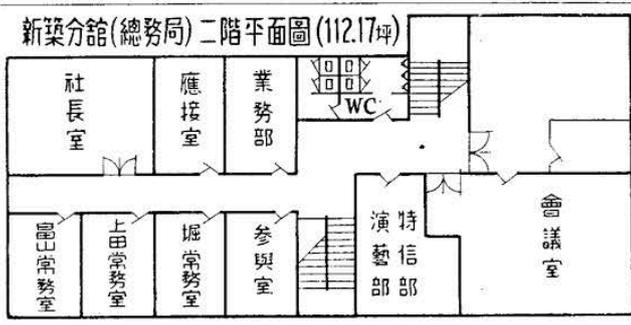


幾分狹隘を救はれたが、然し各部の増員と滿洲部新設などで二階から目録程度の効能しかなかつたらしい。尙分館外經の室と本社發送部の間には氣送管を設備して迅速なる聯絡を計つた。

本館三階電信室に雜居した演藝部は六階にゐた特信部と寄合つて分館二階の一室に陣取つた。然しこれとても高々八・七坪といふ小室で、毎日刻ともなつて外交記者が歸ると坐るべき椅子がない。

暫定的に貸與してゐる有様だ。これを要するに二百餘坪の分館が出来ても、本社に棲じき發展と人員の遞増には追ひ付けず、漸く一時の間に合せとして役に立つといふ程度に過ぎない。その狹隘を心細しとすべきか、本社的發展振りを心強しとすべきか……

尙總務局移轉後の本社六階は、既報の如く遞信省分室として國內同報無線電報發信設備、並びに對外發送設備擴充や國際放送電報受



### 無線通報員

### 同盟本社 見學

無線同報電信の受信に當るべき通信士として目下遞信官吏練習所に於て無線の講習をうけつゝある全國主要電信局の通報員六十名は、廿五日午後一時半福田教育引率の下に同盟本社見學、鷹嘴通信局長より同盟の使命と活動狀況並に無線同報電信取扱に關する注意事項等につき説明懇談の後、三班に分れ鷹嘴局長、田村通信局長、吉田技術部長の夫々案内にて編輯、通信の狀況と放送實況等社内を見學し更に午後三時から別館にて「報道挺身隊」一併び行く電

波一の映畫ニュースを觀、三時半辭去した。

森田國通社長より

滿洲事情を聴く

十一月十一日午後四時から總務局新館會議室で森田滿洲國通信社長を招き古野社長以下各局長、次長、部長出席「滿洲事情」について一時間半に亘り説明を聴いた。

森田氏から

- 一、滿洲における紙の問題
- 一、ノモンハン事件に對する印象の代用食問題
- 一、農業國としての滿洲國の合理化經濟
- 一、大陸政策と日本内地の經濟關係

等の各事情について極めて參考とすべき談話があつた。

### 憲兵學校學生 本社を見學

陸軍憲兵學校學生三十二名は十一月十四日午前九時より教官白濱憲兵少佐及び同校教授水垣進氏に引率されて本社を視察した。一行は主として防諜の見地より國際ニュース通信界の現況並びに同盟の諸事業を見學したいとの希望だったので、先づ古野社長よりこれに關する説明を行ひ、同盟の設立趣意が防諜と外國宣傳の防止に在つた所以を説き、次いで松本編輯局長より國際ニュース通信戰と同盟の活動に關して説明を行つた。かくして七階の各國通信社特派員事務室より遞信省分室のニュース放送電報發受を見學、寫眞發送室並びに編輯局通信局各部を視た上、別館の試寫室でニュース映畫、映畫月報、報道挺身隊、蔣政權の抗



松本編輯局長より 説明を聴く一行

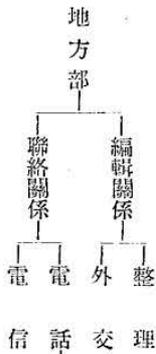
# 地方部の使命

山口 巖

今回の職制改正に依り舊聯絡部と地方部とは地方部なる名稱の下に合體統一された。従來内信局に屬した地方部と聯絡部に屬した聯絡部とは共に通信局に屬する地方部となつたのである。

抑も編輯局と通信局とに區分された所以は取材と配給との二元下に編輯、通信、聯絡の部局を綜合する事が同盟機能をより効果的に發揮するものとして斷行されたものであつて同盟機構の一段階を劃するものと言はねばならぬ。即ち新職制は新聞社と通信社の組織の相違を明瞭に示すものであつて職分分野を明確にした事は何としても意義深きものである。この職制の全き運用は必ずや同盟機能を十二分に發揮するものとして期待される。

**地方部の編成**  
擬て新地方部の職能如何と言ふに前記の如くに舊地方部と聯絡部が統合されたものであつて、全國地方新聞に對する記事の整理及び聯絡を司るものである、換言すれば地方新聞社の綜合編輯局の如き使命を擔つて居るのである。従つてその編成は左の如くになつて居る。



**編輯關係の特異點**  
編輯關係は大體従来の地方部に等しいが特に異なる所は左記の二點である。即ちその

稿の整理編輯に當つて來たが今回は内外信全部に亘つた整理する。第二は外交の點であるが従來は地方部から各官廳の俱樂部に加入して政治部、社會部、經濟部等と併立して取材したが、今回はこれ等を政治部、社會部、經濟部に編入して地方部としては遊軍のみを備へる事にした。これ等は全社の機能を擧げて全國地方新聞社の要望に應へると云ふ用意から中央のニュースに對しては地方部としては從來よりも一層細密な通信網取材網が張られた事になつたのである。

**ブロック整理の實施**  
次に整理編輯については全國地方新聞を地域的に區分して所謂ブロック整理を目標とし、整理係は自己擔當の地方新聞を毎日研究するは勿論、電話送信係とも充分に聯繫協力して、適切時間、通話數等を考慮して送信順位、原稿整理をなす様に配意してゐる。従つて整理係は電話を通じて責任關係新聞社の要望、支局の状況等を熟知し、聯絡と不可分一體の關係を保持する様に努めてゐる。即ち整理係は各自のデスクに於て、關係新聞の編輯をなす心持にて送信記

事の質と量とを表に書き入れ、適切時間、新聞の消化力等を考慮して、聯絡送受信せしめること、換言すればデスクに於て大體地方紙の編輯要覽を作つて考究、整理、

聯絡する事を目標として居る。支社局に對する要望  
然しこれを的確に——これを完遂せしめるには少くとも、地方支社局に於て左記二項を必ず勵行、實施して協力されることが最も緊要である。

一、毎日關係新聞と大朝、大毎(又は東朝、東日等)の中央紙、競争紙との比較をなし日報として本社地方部宛に報告すること  
二、地方に於ける編輯方針、豫定の豫定(例へば知事、部長、市長、縣市會議長、商工會議所會頭團體長等の上京期日、目的、宿舍等)を必ず本社地方部宛に通報すること

斯くの如く本社地方一體となつて相攻究してこそ始めて進歩を期し得るのである。同時に本社の側よりすれば地方支社局に向つてこれと同様の注意手配をなすべきは言ふ迄もない。

**地方新聞出向社員制度**  
更に陣容の整理を得れば地方新聞社への見學をなさしめ分擔地區の人物、風土等の研究もなさしめ度いと考へて居ると同時に地方新聞社よりも本社地方部への出向を求め度いと考へて居る。

この地方新聞社より社員を本社へ出向せしむるの制度は目下考究中であるが、これは地方新聞編輯局と同盟編輯通信局との關係を緊密不可分ならしめ、取材、整理、及び通信聯絡を合理化するもので受信新聞社の整理部員を本社地方部へ出向せしめることが最も有効適切、合理的であると考へる。但し全國各社全部は收容出來ぬのだ

からこれ等を左の如きブロック別となしブロック代表を少くも一ヶ年以上同盟へ出向させて貰ひ度いと考へて居る。言ふ迄もなく出向社員は同盟の指揮統制に服するものなることは勿論である。

**ブロックの別け方**  
ブロックの別け方については種々の角度、觀點より種々の議論もあり、意見もあり、考究中であるが大體左記の如くに區分しては如何かと考へてゐる。即ち

- 一、北海道、樺太地區
- 二、東北地區 (青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)
- 三、關東地區 (新潟、長野、山梨)
- 四、信越地區 (福井、石川、富山)
- 五、北陸地區 (靜岡、愛知、岐阜)
- 六、東海地區 (三重)
- 七、近畿地區 (京都、大阪、兵庫、滋賀、和歌山、奈良、高知、香川、徳島)
- 八、四國地區 (愛媛)
- 九、中國地區 (岡山、廣島、山口、鳥取、島根)
- 〇、九州地區 (福岡、大分、宮崎、佐賀、長崎、熊本、鹿兒島、沖縄)
- 一、臺灣
- 二、朝鮮、滿洲
- 三、外交、遊軍

この根本認識こそ地方新聞社をして独自の發展を遂げしむる重要素であり、又、同盟をして眞に全國新聞社の共同機關たるの責務を盡くさしめるものである。

**附記**  
この際地方支社局に對して特に注意を喚起し度いと考へるのは地方に於ける取材に關する事である。同盟本社は地方新聞社の要望に副ふべく凡有る努力を傾けつゝあるが同時に地方支社局に於ても全國各社の要望を充すために充分の注意を拂ひ、他地方關係ニュース中重要なものは必ずこれを送受信する様にして戴き度いのである。甚だ陳腐の事ながら今日これを茲に繰返さねばならぬ程に地方を以てニユースが貧弱である。

第二は突發事件に對する臨機の處置である。事件突發するや直に第一報を關係地方へ速報するは勿論、記者の特派、寫眞班の派遣、或は映畫班、飛行機等の要否について本社と打合せのみならず關係新聞社との聯絡を充分にとつて遺憾なきを期して戴き度い。斯くの如き言を致すは最近の突發事件が

第一報は速報されても後の手配が不十分で、有終の美を爲さぬことが屢々であるからである。地方支社局に於ては専任記者の配屬を得て居ない處もありはするが苟も同盟に職を奉ずるものは全部が記者たるの心構へを以てニユースに對して貰ひ度いと考へる。

今や我々地方部員は其の責務、餘りにも重大にして、その前途、餘りにも遠望にして、その配屬、餘りにも微弱なるをひしと痛感して居る。然し何人かが必ずこれを爲さねばならぬ仕事であること

- △森田 久君(國通社長) 社務のため十一月六日朝來京、十九日東京發歸滿。
- △川口一男君(映畫部員) 十一月二十日神戸出帆の長江丸で北支總局へ歸任。
- △塚村敏夫君(天津支局長) 事務打合せのため十一月二十二日東京發來京、五日長崎發上海、南京、青島經由歸任。
- △奥宮正澄君(中聯常務理事、中南支總局華文部長) 事務打合せのため十一月二十二日東京發來京。
- △落千代二君(新潟支局長) 事務打合せのため十一月二十四日東京發歸任。
- △二瓶邦雄君(廈門支局長) 十一月三日東京發上海經由廈門へ赴任。
- △西川福三郎君(英文部員) 十一月末中南支總局に轉任。
- △鶴澤邦雄君(技術部員) 十二月月初臺北支局へ轉任。



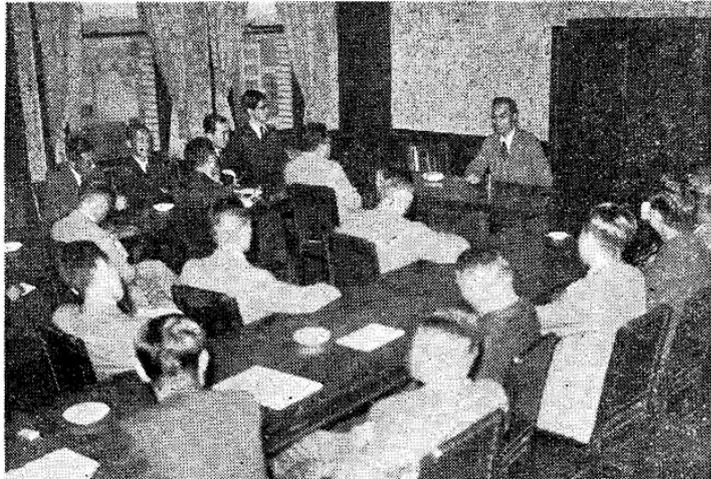
# 米・獨・ソを巡りて

## 船田氏の講演要旨

最近歐米視察から歸朝した元法制局長官代議士船田中氏は、去る七日午後四時半から八階會議室において、同盟社員のため一時開半にわたつて視察談を試みた。氏は日米通商廢棄通告當時は米國に、また歐洲戰開始當時は獨逸に居り、ソ聯を經由して歸國したもので米・獨・ソ三國の事情について講演したが要旨は左の如くである。

### ◇米國の反日氣分

曩に米國議會で中立法改正も政府の思ふ通りにゆかぬ、エンバールは條約を尊重する結果となるので、やる譯にもゆかぬ、いろいろ問題が喧しくなつたので、どうすればよいかと國務省が氣に病んでゐる時、バンデンベルグ氏から日米通商廢棄決議案が上院に提出された。これが非常に人氣を呼んだがジョンソンの反對通告があつたりして審議が捗らぬ、バンデンベルグ案が通過すれば、バ氏が人氣を博し來年の總選挙に影響するので、ルーズベルト政府は困るのだが、さらばと言つて否決されてもまた困ると言ふ羽目に立至り、上院外交委員長ピットマン氏は政府と協議の上同案の審議を延期する事にして息をつけたのであつた。然るに二三日後の七月二十六日突如として日米通商條



(講演中の船田氏)

が政府にとつて痛手であること、海軍青年將校の對日態度が著しく硬化してゐること、日本に對して支那事變で發生した多數の抗議を出してあるが解決されてゐないので、この上は事實に示すより外なしと打つた手であるとも見られる。支那事變勃發當時は一般民衆の間に感情的に相當反日空氣が強烈であつたが、昨今は民衆の反日空氣が薄らいで上層政治家にこの空氣が強い。ワシントンでガーナー氏、バンデルベルグ氏などに逢つたが、バ氏は露骨に「舊い立場を廢棄して新しい立場を作るのは合理的ではないか、君の方でもニューシチュエーションを主張してゐるではないか」などと、支那の機會均等門戸開放を云々してゐたが、肚の中では「ニューオーダーなどと言つても何も出来ないじやないか」と日本を馬鹿にしてゐる素振りが見受けられた、また在米邦人商社方面では大分悲觀説を持つてゐる様に思はれた。

### ◇防共精神に副はぬ獨ソ協定

獨逸の生活はすべて地味で落付いてゐる。服装などもケバくしはしない。元の様な旨いコーヒー等は飲まれず、物價も高くなつてゐる。ホテルのコーヒーポトルが一マーク二〇ペンニツヒ、それに玉子を食べると二マーク七五ペンニツヒから五マークになる。旅行者から見れば可なり高い。安いレストランでも普通食事をすると二マークは要る、只昔の味と變らぬのはビールだけである。八月二十三日突如獨ソ協定が成立して友好關係が結ばれた。獨ソ間には一九二六年四月の政治協定があり、その第二條により締約國の一方が、第三國と戰爭を開始した場合他の一國は第三國に物資を供給しないといふ約束があるので

若し假りに日ソ兩國が戰端を開始した際、日本は獨逸から供給を得られない事になり、この防共協定とは全く矛盾してゐる。獨ソ協定成立後獨逸情報部長が外國記者團と會見、獨ソ協定について説明した際各國記者とも敢て質問しようとしたが、獨り同盟の安達君が「合法的にやるね」と痛い處を突込んで獨逸側を怒らせたといい話もあつた。兎に角獨ソ協定が明らかに防共協定の精神に背反して日本を裏切つた形である。獨逸もソ聯も外交機密は完全に保持され、獨ソ協定の如きも内密に進められてゐたものであり、獨ソの外交はイデオロギーから出發して今は全く實利外交に變つてゐる。獨逸はソ聯に對し「戰爭はこちらでやる分前は充分にそちらにもやる」といふ譯で此度のポランド問題を片付けたものだ。

### ◇宣傳に大童のソ聯

ソ聯は蕭清によつてスタリソ政權は強化されてゐる。軍備も佛蘭西の新兵器を取入れ、また獨ソ接近によつてテュッコ等の兵器も入り自動車も相當よいものがある。日用品も獨逸よりはよい、バターの如きも獨逸は人造バターであるがソ聯は本場だけに乳製バターを使つてゐる。モスコのメトロホテルの如きは何でもあるといふ状態で、地下鐵も却々完備し想像以上であつた。それに宣傳が仲々うまく苦心してゐる、例のノモンハン事件の如きも日ソ停戰協定と同時に宣傳に使ふことはビタリと止めて、支那問題を材料に日本を云々してゐる。モスコの農業博覽會の規模といひ、米國博覽會のソ聯館といひ實に大きなスケールで旨い宣傳をやつてゐる。然しこの反面には相當深遠な悲惨なものもある事は勿論で、勞働者の移動列車の如き酷いものであつ

# 同盟學寮の光榮

## 感激の玉井君

同盟學寮は麻布市兵衛町高寮の閑靜なる環境に恵れ乍ら、日夜精神鍛鍊、勉勵精進に努めて居るが今般寮生の玉井靖君(地方部)は十八日郷里へ出發したが、その際同君入營のことが市兵衛町の東久瀨宮殿下の御前に達し、畏くも御紋菓、御煙草を下賜され、玉井君は涙をポロ／＼と滾して感泣した。御禮言上と同宮邸支關へ伺候した際に、同宮邸殿下には態々御支關へ出御、「身體を大切に」と有難き御言葉を賜つた由で玉井君は感激の聲振はせ乍ら御禮言上して退下したが身に餘る光榮に浴して、この上は一死報國の念を感々



(寫眞は玉井君の送別會)

固くし勇躍歸郷したが、右は玉井君一身の光榮に止まらず、學寮の面目として、同盟寮一同いたく感激したのである。

## 互助會報告 (十一月)

- △結 婚
- 岸江 憲一 (本社外信部)
  - 進藤 倫平 (本社社會部)
  - 藤原 幸祿 (本社社會部)
  - 中村 憲二 (本社技術部)
  - 山田 繁治 (杉山支局)
  - 上杉 憲治 (熊本支局)
  - 伊藤 信義 (名古屋支社)
  - 山田 實 (北支總局)
  - 波多江常磐 (福岡支社)
- △出 生
- 有馬靜夫 (本社寫眞部) 第二子女
  - 竹市信康 (本社地方部) 第二子女
  - 秦 巖夫 (本社政治部) 第一子男
  - 蒔田 金造 (横濱支局) 第一子男
  - 山崎 利夫 (函館支局) 第一子男
  - 久野 茂男 (香港支局)
- △入 營
- 玉井 實 (本社地方部)
  - 山田 哲郎 (本社映畫部)
  - 木村 博爾 (本社外信部)
  - 鈴木 鐵雄 (本社編輯庶務)
  - 岡野 義弘 (名古屋支社)
  - 福島 安正 (大阪支社)
  - 二川米太郎 (大阪支社)
  - 島田 隆夫 (同上)
  - 山本 敬夫 (同上)
  - 高木 正忠 (名古屋支社)
- △應 召
- 岡田 正雄 (札幌支局)
  - 酒井 周敬 (名古屋支社)
  - 茶谷 浩一 (大阪支社)

# 専用線の鼓動

## 沿線支社局の緊張

仲びに仲びた同盟の専用電話線！  
北は札幌から南は鹿児島まで一本の電線で帝國本土が縦に繋がれたのはついでのことだ。去る十月からは福岡を基點に荒波の玄海灘を越え釜山京城へ、更に越えて奉天へと滿洲大陸まで隣りに伸長した。しかも内地にも大陸にもつとく大陸に横に伸び行く餘地がある。いや仲びさねばならぬ使命を同盟は負つてゐるのだ。仲びて行つたこの電話線によつて、北地追分の哀調も東北の吹雪も半島アフリヤンの唄も瞬間のうちに、流す筏か氷に鎖さるゝ鴨緑江を渡つて新天地滿洲の廣野にまで同盟ニュースとなつて交流してゐるわけだ。

かくして内地は勿論のこと半島も大陸も皆顔つき合せて語り合ふのと寸分違はぬまでに短縮されて了つた。このニュースの心臓部たる本社と、こゝから走る大動脈を傳つて名古屋・京都・大阪・神戸をはじめ、沿線各支社局は心臓の鼓動に從ひて支社局の刻むごとく一刻の遲滞もなく重要なニュースが行交ひ、本社と支局は全く一體となつて東亞新秩序建設の大使命による通信報國に懸命である。

## 大陸相手に張り切る

### 福岡支社

隨分期待の大きい大陸専用電話線ではあつた。それだけ「運用の主動局とす」と新京會議で決議された。福岡支社であつてみれば責任の重大さも痛感せずには居れなかつた。事實福岡支社は大陸線の開通とともに我社の大陸への前進基地であり滿鮮に對する通信の大動脈に位置してその中繼任務はなまやましいものでない事當然であるのだつた。

福岡としてはほんとうに可なり重荷であつたのだ。かくて大分思ひわづらつたのだつたが、いよいよ開通したのは十月一日、爾來日毎に追廻さるゝやうな慎重さの日が續いて夢のやうな二ヶ月を経過した。そして開通後の実績を振り返つてみると線そのものは通信省

し、送信者の能率を最高度に發揮し運用上の必要に資すべく目下猛訓練中である。福岡としては沿線各支社局のよりよい理解のもとに支援と協力とを得て張り切つてゐる。これが直に線の威力發揮ともなり本社并に國通の期待に副ふ所でもあるのだ。

## 大陸線の流れ

### 釜山支局

ながい間非常な期待をつながれ話題の中心となつてゐた「同盟大陸専用線」の開通は、まさにわれ／＼にとつて大陸への夜明けであり、通信界の黎明であつた。しかも「同盟」のつきざる飛躍發展の希望に輝く象徴である。

福岡—釜山間十七通話、釜山—京城間四通話、毎日タタタ計二十一通話の豫約電話だつたが、御苦勞にも線の故障をさへ交換手のセイにして怒鳴りつけ、カワイソウニ局内の支局番號にはいつも「注意」の赤紙が貼りつけられたまゝだつたが、それも「昔なつかし豫約の時代」の思出に一變、福岡—釜山—京城—奉天間一千五百キロは忽ちにして一切の支障、境界を取り去り、四地同盟マンは恰も同居の如し。受話器さへあてれば、鮮滿同人はなつかしい内地の臭ひを現實に嗅ぎ得られ、内鮮同人はまた時に優しい姑娘の聲もきかるといふもの。気分もおのづから若返らうではないか。支局の形も變つた。以前は殆ど物置同然のものだつた。朝鮮のオカミさんが、けたましまし駆け込んで來き、キョトンと見廻したのち



寫眞説明

釜山支局編輯室の一部、向ふガラス戸内が無電室。

電畫と人造人間の時代かも知れない。  
大陸専用線も開通後すでに二ヶ月になり、その扱ひ方も、みんながどうにか馴れて來たやうだ。だが連絡上まだ「改善すべきこと」が多々氣付かれる。その重點は送信、受信の合理的操作で、適當な機會をえらび、關係地支社局長會談を開いて何等か一貫せる大陸専用線の連絡操典確立について協議することが必要と思ふ。

【互助會つゞき】

小寺 信重(本社特信部) 夫人入院	伊藤 謙三(本社庶務部)	齋藤 省吾(名古屋支社)	松宮 覺次(同上) 女子死去
福岡 誠一(本社)	伊藤 謙三(常務理事)	上原 正吉(本社經濟部)	水田 和文(大阪支社)
川井 行雄(本社寫眞部)	井口 照子(大阪支社)	齋藤 正躬(北支總局) 夫人死去	三浦 良道(大阪支社)
山本 茂久(本社商況部)	吉村 榮吉(關門支社) 子女病氣	齋藤 正躬(北支總局) 實父死去	齋藤 省吾(名古屋支社)
寛 千壽子(本社庶務部)	松本 幸一(岡山支局)	伊藤 謙三(關門支社) 實父死去	齋藤 省吾(名古屋支社)
伊藤 謙三(本社庶務部)	河邑 光城(熊本支局) 夫人入院	三浦 正穂(鹿兒島支局)	齋藤 省吾(名古屋支社)
伊藤 謙三(常務理事)	山路 吉門(大阪支社)	山路 吉門(大阪支社)	齋藤 省吾(名古屋支社)
井口 照子(大阪支社)	草野 哲(名古屋支社)	草野 哲(名古屋支社)	齋藤 省吾(名古屋支社)
吉村 榮吉(關門支社) 子女病氣	大星 石松(南京支局) 夫人病氣	大星 石松(南京支局) 夫人病氣	齋藤 省吾(名古屋支社)
松本 幸一(岡山支局)	稻津 己喜二(同上) 夫人病氣	稻津 己喜二(同上) 夫人病氣	齋藤 省吾(名古屋支社)
河邑 光城(熊本支局) 夫人入院	山田 忠弘(大阪支社) 實母入院	山田 忠弘(大阪支社) 實母入院	齋藤 省吾(名古屋支社)
三浦 正穂(鹿兒島支局)	小佐々朝治(福岡支社)	小佐々朝治(福岡支社)	齋藤 省吾(名古屋支社)
山路 吉門(大阪支社)	前川 春吉(熊本支局)	前川 春吉(熊本支局)	齋藤 省吾(名古屋支社)
草野 哲(名古屋支社)	酒井 井平(金澤支局) 夫人病氣	酒井 井平(金澤支局) 夫人病氣	齋藤 省吾(名古屋支社)
大星 石松(南京支局) 夫人病氣	山野 喜祝(大阪支社)	山野 喜祝(大阪支社)	齋藤 省吾(名古屋支社)

## 本社旅費規程改訂

### 附 從軍手當及旅費規程

本社の職員旅費規程及從軍手當、旅費規程を改訂し昭和十四年十月九日より實施する旨同日附の總務回狀第五十六號で左の通り發表した。

### 第一章 通則

第一條 職員(社員、准社員、雇員)執レモ試用中ノ者ヲ含ム。及嘱託ニシテ職務上命令ニヨリ旅行スル場合ハ本規程ニヨリ旅費ヲ支給ス。

第二條 旅費ハ順路ニヨリ之ヲ計算ス。但シ特別ノ命令又ハ事由ニ基キ順路ニヨリ難キ場合ハ其經過シタル道路ニ依ル。私事ノタメ許可ヲ得テ滞在シ又ハ迂路ヲ經過シタルトキハ其ノ間ノ日

當、宿泊料又ハ迂路ニ對スル旅費ハ之ヲ支給セズ。但シ傷痍疾病其他已ム得ザル理由ニヨリ出張地又ハ途中ノ滞在日數及迂回路ニツキ特ニ本社ノ承認ヲ得タル場合ハ其間ノ日當、宿泊料又ハ迂回路ノ乘車船賃ヲ支給スルコトアルベシ。

第三條 旅行中身分又ハ俸給ノ變更ニ依リ支給スベキ旅費額ニ増減ヲ來ストキハ前職相當ノ旅費ヲ支給ス。

第四條 旅行ヲ終リタルトキハ歸着後一週間以内ニ所要領收證ヲ添付シテ旅費精算書ヲ提出シ旅費ノ精算ヲ行フベキモノトス。

第五條 左記ノ旅費ノ支給ニ關シテハ別ニ之ヲ指定ス。

【七面につゞく】

# 中華聯合通訊社

## 現況概要

### 一、創立より現在に到る経過

中華聯合通訊社は上海附近に戦火の餘燼尙收まらぬ昭和十三年(民國二十七年)二月十五日軍特務部の指導監督下に支那側有志及び同盟通信社代表相集り新中國建設に資すべき報道宣傳の重大任務を遂行し併せて全支に互り完全なる通信網を有する一大國策通信社に育成すべき理想のもとに計畫創立されたる通信社である。

維新政府樹立せられるや政府の政綱政策を正確迅速に然も詳細に支那民衆に傳ふべき重大役割を演じ益々其の機能を發揮し實質的に維新政府の機關通信社としての使命を全ふすることを得た。

斯くて五月に入り同盟通信社と交渉の結果從來同盟通信社が維新政府治下に配置しありたる華文通信員を引續ぎ通信網の確充強化に勉めると同時に遠く香港にも特派員を派し維新政府及び日本の主張を香港を中心とする支那民衆に宣傳せしめ日本軍の南支作戦に協力せしむるところがあつた。此の頃に入り維新政府に於ても宣傳報道事業の重大なるを痛感し行政院に宣傳局を設置し維新政府の新開通信政策をも確立するに到つたので中聯社は維新政府機關通信社として正式に調定され經費も政府より支出されることに決定を見た。六月に入り杭州・南京・蘇州と漸次分社を増設し通信發行の計畫を進め八月一日維新政府機關新聞たる南京新報・杭州新報・蘇州新報が創立せられるや各分社に於ても通

信を發行各新聞社及び政府機關と緊密なる連絡を執り報道宣傳業務遂行に遺憾なきを期するところがあつた。

九月には維新政府南京に移轉せる爲め中華聯合本社を南京に移轉するに決定其の準備中十月十六日常務理事兼總務部長余毅民氏は不幸兇漢の爲め上海新亞ホテルに於て暗殺せられ社務も一時停頓の状況に陥つたが余氏の意志を繼ぐ若き社員が努力し同盟通信の有形無形の援助により間もなく舊來に増し社務の發展強化を來し十一月には豫定の如く本社を南京に移轉し二月には各地新聞社の經營に援助を與へ併せて宣傳無の効果を一層大ならしむる目的を以て販賣部を設置し新聞雜誌の取次ぎ販賣を開始し昭和十四年二月よりは同様のものとして日本電報通信社より専門家の派遣を乞ひ廣告部を設置し通信社としての内容を一應整備することを得た。茲に於て二月中旬同盟通信社古野社長の來支を機會に同盟通信社と一屬密接を確立し定款を改正名實共に國策通信社として進むべき準備を整へたので漢口新政權とも特殊の諒解のもとに六月より武漢分社を設置し、七月には南通に南通分社を設置し揚子江以北の各新聞と連絡せしめたるを以て維新政府治下の通信網は大體完成するに到つた。

### 二、中聯社と同盟通信社との關係

中聯社は其の創立の當初より有形無形の同盟通信社の援助協力を受け來つたが昭和十四年二月古野常務理事(當時)の來支を機會に同盟通信との間に取極めを行ひ國策的一大通信社の設立に對し同盟通信社と協力邁進すべき一大方針を決定し一層緊密なる關係を保ち無電設備も又同盟社無電網に協力強化しつゝある。

### 三、中聯社の現況

#### (一) 本社狀況

中聯社は現在南京市復興路一五五號に設置せられ其の内部機構は總務・通信・聯絡・寫眞・製版販賣・廣告の六部より成る。

#### (二) 分社狀況

現在分社は總分社二社・分社四社あり何れも無電を以てニュースの聯絡に當り國際情勢並に各地方情勢の通報を實行しつゝある。

#### (イ) 上海總分社

八月初旬より事務所を虹口海寧路の同盟通信社中南支總局と同一ビル虹口ビル内に移轉し同盟社との合作を密にしつゝある。

#### (ロ) 武漢總分社

六月二十日漢口鄱陽街の同盟通信社漢口分社と同一家屋に新設し武漢特別市政府と特殊關係を樹立し武漢の復興情勢を通報しつゝあり八月より武昌及び漢陽の二地に通信員を配置し目下孝感・安陸・應山・咸寧等十餘縣にも通信員を配置しつゝある。

#### (ハ) 各地分社

蘇州・杭州・蚌埠の三省政府所在地及び江北の中心地たる南通の四ヶ所に夫々分社を設置し南京本社との無電聯絡により各地新聞の報道宣傳の統制強化を圖りつゝあるが此外蕪湖・揚州・鎮江・無錫にも分社設置中である、尙各分社は附近主要都市に通信員を配置しニュース蒐集に萬全を期しつゝある。

各地通信員配置一覽表は次の如くである。

#### (二) 各地通信員

南京本社管轄 鎮江・丹陽・常州・無錫・崑山・蕪湖・揚州・金壇・吳興・廣東・安慶

#### (三) 販賣部

蘇州分社管轄 吳江・常熟  
南通分社管轄 如皋・海門  
蚌埠分社管轄 徐州  
武漢總分社管轄 武昌・漢陽

#### (四) 廣告部

廣告部は次の如き目的を以て設置されたものである。

#### (イ) 廣告の取次

屋外廣告の統制淨化運動に協力

#### (ロ) 寫眞製版部

七月月上旬より南京本社に寫眞設備及び製版設備を設け時事寫眞ニュースの配給及び銅版の製作配給を行ひつゝある。尙上海總分社内にも寫眞製版の設備を爲すべく目下準備中である。

#### (三) 寫眞製版部

十一月二十二日東京せる中華常務理事、中南支總局華文部長與金正澄氏が月例部長會議に、異常の發展をなしてある同社の現況を報告された要領である。

【六面よりつゞき】

一、役員ノ旅行	二、内地ヨリ滿支以外ノ外國ノ旅行	三、滿支ヨリ外國ノ旅行	四、日滿支以外ノ外國相互間ノ旅行
五、日滿支以外ノ同一外國内ノ旅行	六、從軍旅費	第七章 出張旅費	第六條 日滿支間相互ノ出張旅費ハ左ノ區別ニ依ル

(單位圓)

區別	日當	宿泊料	片道百軒以上ノ日歸旅行ノ日當	汽車賃	汽船賃	車馬賃
一、無賃乘車船券ヲ利用シタル場合ハ其區間ノ乘車船賃ハ支給セザルモノトス	二、〇〇	四、〇〇	一、五〇	三等	二等	實費
一、局長、局長、總支社局長	四、〇〇	七、〇〇	四、〇〇	二等	一等	
二、部長、參事ノ在職者ニ對シテハ前記當該級ヨリ一上級ノ日當ヲ支給ス。但シ宿泊料ハ此限りニ非ズ	五、〇〇	九、〇〇	五、〇〇	一等		
三、宿泊料、食費賄費、寢臺料	六、〇〇	一〇、〇〇	六、〇〇			
四、車馬賃ハ經過順路上當然必要トスル汽車汽船賃以外ノ交通費、ニュース蒐集、寫眞映畫撮影、社用諸物品運搬其他特殊ノ要務遂行上必要ナルモノ以外ハ原則トシテ支給セズ						
五、ニュース蒐集又ハ撮影ノタメ片道百軒未滿ノ日歸旅行ニ就テハ日當ヲ支給セズ實費ニ依リ計算スルモノトス						
六、社ニ於テ共同宿舍ヲ設備スル地域ニ在リテハ特殊ノ事由ニヨリ已ムヲ得ザル場合ノ外原則トシテ其宿舍ニ宿泊スルモノトシ其宿泊期間中ハ前記宿泊料ニツキ三割減額スルモノトス						

七、本規程ニヨル旅費ヲ以テ支辨シ能ハザル特殊ノ旅行ニツイテハ本社ヲ承認シタル場合ニ限り實費計算ニヨリ支給スルコトアルベシ

八、華人及臨時雇員ノ旅費ニツイテハ前記旅費ヲ超エザル範圍ニ於テ總局長適宜之ヲ定ムルコトヲ得

第七條 同一箇所ニ滞在十泊ヲ超ユルトキハ左ノ割合ヲ以テ日當及宿泊料ヲ減額ス

(イ) 十泊ヲ超ユルトキハ超エタル日ニ對シ 一割

(ロ) 二十泊ヲ超ユルトキハ超エタル日ニ對シ 二割

(ハ) 三十泊ヲ超ユルトキハ超エタル日ニ對シ 三割

但シ前條第六號ニ該當スルモノ三十泊ヲ超ユルトキハ超エタル日ニ對シ日當ノ二割

第八條 在外手當ヲ支給スル地ニ臨時在勤ヲ命ゼラレタル者ノ新舊勤務地間ノ旅費ハ第六條ニ規定スル旅費ヲ支給スルモノトス

第九條 出發ノ日ノ日當ハ之ヲ支給シ午前歸著ノ日ノ日當ハ支給セズ

同盟人事

Table listing personnel for various departments including 總務局出版部, 編輯局, 郵務局, and 經濟局. Columns include names, positions, and organizational affiliations.

【七面よりつづく】
第三章 轉勤旅費
第十條 日滿支相互間ニ於テ轉勤ヲ命ゼラレタルトキハ第六條ニヨル新舊勤務地間ノ乘車船賃ノ...

Table with columns for '區別' (Classification) and '區' (Region). It details travel expenses for different regions like 滿洲, 支那, and 內地.

從軍手當及旅費規程
第一條 北支、中南支總局及管下各支局勤務社員(准社員及試用中ノ者ヲ含ム)ニシテ從軍シ前線ニハ奧地ニ派遣セラレタル者ニ對シテハ旅費規程ヲ適用セズ...

第十二條 轉勤ノ途中命令ニ依リ轉勤地外ノ地ニ宿泊シタル場合ハ豫メ其滞在日數ヲ指定シ其滞在日數ニ對シテハ第六條ニ依リ日當及宿泊料ヲ支給ス...

編輯後記
近頃ちよい／＼街頭の電氣時計が不良と貼紙されてゐるのを見る社内の時計も時々狂つてゐる事がある、寸秒も疎かに出来ない仕事に携つてゐるのに、之では無ぞ困るだらうと、國策とは謂へ電氣が暗い、燃料が不足だ、燈房などもまだ遣入らぬ等々ではいよ／＼使命重大な同盟の仕事に支障を來しはしないか、と心配する向があるかも知れないが...

資源壕防止
出すな火事。
も半島も大陸も、一呼吸のうちに連繋する放送部の出現、滿洲部の確立、地方部の擴大強化、内徑の新計畫整理部の業務充實等々實行に移りつゝあるので、社員の間には時間とか低温とかそんな事は仕事への熱情でけし飛ばし、夫々鍊達の人材を中心に新人張り切り「さあ何でも来い」といつた緊張ぶり、各支社局内の緊張も本社と異なる筈はない。これを洩れなくドシ／＼掲載して同盟報の使命を果したい、編輯子不慣れの點は御宥しを願ふと共に大方各位の御聲援御寄稿を希望する。

原稿締切
毎月廿日